

新しい仲間の君へ

——抗うのではなく、懐かれて海と一つになろう——

1. きっちり乗る気なら、新聞、テレビで天気予報と博多湾の満潮・干潮の時刻を確認する。晴れても雨支度、夏でも冬支度。
2. 原則として09:00までにハーバーに来よう。普通の艀装で30分、応急修理や補修などしていると、すぐ1時間はかかる。午前中乗る時間がなくなってしまう。
3. ハーバーで顔を合わせたら、クラブ仲間かストレンジャーかを問わず「おはようございます」と声をかけよう。事務所の人たち、清掃のおばさん、学生諸君…。挨拶されてシカトするような奴は、そう多くない。相手が思わず釣り込まれてしまうような勢いで声をかけよう。
4. ハーバー事務所には、その日の気象データがある。自宅で見損なったら、ここで海況を確認しよう。
5. クラブ室へ。ロッカー4個と部室の鍵を開け、点灯する。前日（先週）の乗艇ノートを見て、部品などが不具合で使えない艇をチェック。どの艇を出すか決める。
6. ミーティングで朝の会話も楽しもう。乗艇相手が決まったら、さあ、ヤードへ——。
7. 君はVIPではない。自分が乗る艇の装備品ぐらい自分で運ぶ。セイル袋、シート類、バテン、黒球……余裕があれば、道具箱、雑索類、ガムテープも台車で。
8. 艇の備品は、結構高価だ。大切に扱おう。運ぶ途中で落としてキズをつけたり、周りの人や物にぶつけないように。無理をせず、2回に分けて運べばいい。
9. 艀装は2人の分業だ。ぼーっと突っ立ってないで、自分でできることは進んでする。ヨット教室を修了したのだから、ジブシートの取り付けぐらいできるだろう。舳い結びは？ 8の字結びは？ 分からなければ訊けばいい。訊くは一時の恥…。
10. 艀装しながらセイルの破れ、縫い目のほころび、ハリヤードのささくれ、シートの傷みなどにも目を配る。できるものは、その場で補習する。

- 1 1. 艀装のためコクピットに乗り込む人が、最近は多い。水上なら3人乗っても接水面全体で重量を受け止めるので、たとえ200キロでも平気だが、地上では船台との接点2~3カ所に重量がかかるので、じょうぶなFRPでもたまらない。第一よごれる。マスト立て・倒しや、シミュレーションの時以外は極力乗らないようにしたい。
- 1 2. ラダーを装着する時は、地面にぶついたり擦ったりしないように、自分のライフベストを下に敷く。スロープへ向かう途中も十分気を付ける。
- 1 3. セイルも同じ。地面でがさがさ擦ったのでは、コーティングがすぐに剥げてしまう。他の舟の上に広げ丁寧にたためば、少しは違うのでは。
- 1 4. ヤードにいる大学生、高校生たちは、われわれよりはるかに優れたセイリング技術を持っている。先生だ。彼らが艀装を始めたら、そばへ行ってしっかり見る。自分の艇と何処が違うのか、何のためにそんなへんてこな物がついているのか。なんでも訊ね、教えてもらおう。
- 1 5. 出艇届は書いたか？ 糞尿は済ませたか？ では海へ。
- 1 6. 出艇とは濡れるもの、と心得よう。教室で何と煽てられたか知らないが、今はクルーという“禪かつぎ”。四の五のいわず、臍まで水に漬かって艇をしっかりと支えろ。フォアステイからサイドステイまでの間を掴んでないと、艇を風に持っていかれるぞ。
- 1 7. 出艇は100%実力が出る。他人が見ていたら、面子にかけてかっこよく決めろ。そのためには、学生諸君ら上級者の出艇をしっかりと見る。スキッパーが、クルーが、何を、いつ、どうしているのか、考える。とてもいい勉強になる。
- 1 8. 君の最初の役回りはクルーだ。他の艇と衝突したら、見張りをさぼった君の責任。沈したら、バランスをとらなかった君の責任。いい風なのにいまいちスピードが出なかったら、ジブトリムが下手くそな君の責任。重大だ。ぼーっとしてちゃいけない。5秒後、10秒後に何をしたらいいか、するのかを自分なりに考えながら、スキッパーの指示を待つ。
- 1 9. スキッパーが一番嫌うのは、乗ったが最後ドーンと座り込んで、何をするにもドッコイショと掛け声が要る腰の重い奴。一瞬で反対舷に移れるよう、踵をいつも浮かせておく位の気持ちがいい。

20. ご安全に、ご無事にとヒリヒリせずに、乗ったら1回は沈をするつもりで沖へ出よう。ライフベストをしっかりと着ける、落水しても艇から決して離れない——この2点さえ抑えておけば、博多湾のセーリングは安全で楽しい限りだ。
21. 着艇も出艇と同様、もろに実力が出る。無駄なく、美しくセイルを降ろし、スロープに降り立とう。慌てて滑って無様に転ばないように。
22. 学生艇や他の艇がスロープで立ち往生していたら、必ず手伝おう。彼らはOSSCのコーチであり、レスキュー部隊でもある。
23. 解装は、君の人柄が一番よく表れる。疲れていても、次に乗る仲間のために、きちんと塩抜き作業をしよう。セイル、ハル、コックピット内の金属部分、ラダー、ティラー、ブーム、シート類、船台の車輪も十分洗う。
24. 部品を確認し、クラブの約束通りに収納し、記録を残す。簡単な補修や数合わせは、その場で片付けよう。朝、艀装してみたら部品が不足、また解装しなければならないイライラを、仲間に味わわせないようにしよう。
25. OSSCは平均年齢40歳以上の社会人のクラブだが、小戸では少年少女の心に戻ってセーリングを楽しみたい。しかし、あくまで社会人としての高いモラルを守って行動し、他の利用者から後ろ指を指されることのないよう、絶えず心したい。
26. セーリングって、自転車に乗るようなもんだ、と新しい仲間に話している。自転車も、中野浩一のように世界スプリント選手権で10連覇したり、ツール・ド・フランスに出るつもりなら、太ももが85cmぐらいになるまでシャカリキで自転車を漕がなきゃなるまいが、ママチャリで弁当を買いに行くぐらいなら、すぐできるようになる。沖へ出て「うわぁーっ、気持ちいいーっ」とわめいている時のヨットスピードが、多分ママチャリ並みの20キロ程度だろう。でも、あの気分はママチャリでは味わえないよ。
27. それでも、自転車に乗れるようになるのに1週間ぐらいはかかる。その間、君のプライベートタイムを、セーリング漬けにしてみてもどうだろう。書店に行ったら、セーリングの本を1冊は立ち読みしてこよう。紀伊国屋で「舵社の出版物のリストを全部見たい」と頼んだら、六尺禪ほどの長一いファクスが出てくるぞ！

28. 台風（低気圧）が近づき、あるいは前線の通過で強風が予想される時は、早めにハーバーに来て艇を縛り直そう。もう20年ほど昔、台風がここを直撃した時、巻き上げられたディンギーが宙を飛んで10mも離れた他の艇に突き刺さるのを目撃した。それ以来、強風が来るとハーバーに足が向くようになった。電話で声を掛け合って仲間といっしょに作業をすれば、結束も固まり、次のセーリングが楽しくなる。
29. 時化で乗艇できない日でも、ハーバーに来て海の匂いをかぎ、博多湾の四季を肌で感じ取ろう。小戸の落日は、なかなかのものだよ。

以上、ふだん軽視されがちだけど、乗艇技術なんかよりずっと大切だと思っていることを、アト・ランダムに書きました。皆さんにも早くママチャリ・セーリングを楽しんでほしいから、クラブの財政を少しでも豊かにしたいから、ビールを泡までおいしく呑みたいから——です。他意は毛頭ありません。

文責・富田淳一郎
(1984年入会)